

おきなわ八重山地域の持続可能な森林利用にむけたロードマップ

1 テーマの趣旨・目的

石垣島のある沖縄県八重山地区の持続可能な森林利用に向けて、県・市町村・民間事業者が一体となって取り組みを継続して行えるように、県の林業普及指導員が中心となりロードマップを策定し、その実現に向けて取り組んでいるので報告する。

2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

(1) 現状

石垣市、竹富町、与那国町から構成される八重山地域は、松くい虫被害がなく健全な松林が広がる等の豊富な森林資源を有している一方で、域内での地域材利用の規模が小さく、また域外への輸送はコスト面で進まず安定した需要と供給に至っていない。このような中、県・市町村と民間事業者が一体となった取り組みが求められるが、県や市町村職員は人事異動があり、また市町村職員においては林業の専門技師ではないため継続的な取り組みが困難な状況である。

(2) 取組内容

公共・民間それぞれの課題や目標達成に向けた行動計画を可視化することで関係者間の協同した取り組みが円滑に進むように、また異動の際にも継続して実施できることを目指してロードマップの策定に取り組んだ。この中で、林業普及指導員は関係者間の合意形成に至るまでの中心的な役割を担った。

(3) 成果

ロードマップに即した取り組みとして、普及指導員自ら、より高付加価値な地域材利用を目指し、県外の名木市場への参入に取り組んだほか、地域材の選択的購入の

機運を醸成するため、満足度を高めた木育を実施した。

(4) 課題

本地域の林業の持続可能性を高めるため、資源量が多く安定した木材生産が可能なりゅうきゅうまつ中径材の需要創出に加え、分散する施設を効率的に活用する等流通体制の構築に向けた取り組みが求められる。

また、木材供給体制の安定のためには、より実効性の高い森林施業に関する中長期的な計画が必要である。

3 今後取組むべき内容

① 具体的手法又は検討方向

木材生産流体体制の構築にむけては、県の委託業務を活用し県営林からりゅうきゅうまつを生産し、製材、人工乾燥を行い、公共施設等での利用およびイベント等により地域材のPRを進める。

また、森林施業に関する計画としては、デジタルデータ等の新たな技術を活用し、県営林の計画を策定し、さらに市町村の計画策定支援に取り組む。

② 理由

需要創出のためには、現状における八重山地域での乾燥板材の生産コストを正確に把握する必要がある他、県が率先して公共施設での利用を進めることで市町村への波及効果を促す。

また、令和6年度に航空レーザーデータが入手できたため、スマート林業の実証が可能となりより正確で効率的な計画立案が可能な状況となった。

③ 期待する成果

安定した需要と生産供給体制が構築され、本地域の持続可能な森林利用が実現される。